

をもってつもっていることを理解する。

- (3) 地層に近づいて、その特徴を観察させる。

④層は川原で見られるようなまらいいレキがつもってできている地層で、レキの大きさは2～15cmの大きさです。レキの多くは安山岩や緑色凝灰岩からできています。

⑩層は茶かっ色のローム層でやわらかく、このローム層の中には15cmほどの厚さの白っぽい泥層がはさまっています。

これらの地層は新第三紀の末、会津一带が長い海底時代から陸時代になる過程で、周辺にとり残された湖であった頃、湖底につもった鮮新世のころの地層です。

2、川原のようすと流水のはたらき

- (1) 調べる場所

稲荷神社前の川

- (2) 川の流が見通せる土手の上から、川原の様子や水の流れを観察する。

- ① 土手から川の全景をスケッチする。
② 川原や川原のふちのけずられている様子など、気づいたことを書き入れる。



- ③ 流れが曲がっている場所で、川原のふちがけずられているのは、流れの曲がっている内側か、外側か。
④ 流れが大きく曲がっている内側には川原が見られますが、他の流れが曲がっている場所でも調べる。

- (3) 川原において、流水のはたらきを調べる。

- ① 川原⑦、④付近の深さを比べる。
② ⑦、④付近でそれぞれ5mの長さを取り、川の流速を調べる。

